
不整脈予防における ARB, ACE 阻害薬とアルドステロン拮抗薬

近年、現に起こっている不整脈の対処療法としての downstream 治療に対し、不整脈の原因となる基質を抑え、予防的な方策をたてる upstream 治療が注目されている。前者は、多くの抗不整脈薬による治療であり、Sicilian gambit に代表されるように、不整脈に関与するイオンチャネルやトランスポーターがターゲットとなる。一方、器質的な病態(高血圧・心不全・心筋梗塞など)を有する症例では、心筋の電気的あるいは構造的リモデリングが大なり小なり発生し、不整脈を引き起こす基質を修飾することがわかってきた。Upstream element とよばれるが、これに対するアプローチが upstream 治療である。レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系(以下 RAAS)の活性化が upstream element の代表であり、とくに構造的リモデリングの促進に関与することが、分子・細胞レベルで徐々に明らかとなってきた。例えば、心房細動やある種の心室性不整脈においては、ACE 阻害薬や ARB で RAAS を阻害することにより、その新規発症が抑制されることが大規模臨床試験でも示されている。また、アルドステロン拮抗薬は、重症心不全患者の予後を改善し、急性心筋梗塞の慢性期心室リモデリングの進行を抑えるとの報告があり、ある種の心室性不整脈に対しては、予防的に働き、upstream 治療薬となる可能性が示唆されている。実際には臨床での知見が先行し、そのメカニズムについての研究が始まった感も強い。

この分野では、我が国の研究者が世界をリードする仕事を多く発信しており、研究成果の発表は大変興味深いものといえる。そのような意味でも、昨年名古屋で行われた第24回日本心電学会学術集会の学術諮問委員会提言シンポジウムでの「不整脈予防における ARB, ACE 阻害薬とアルドステロン拮抗薬」の講演は貴重といえる。またその際、不整脈の upstream 治療として RAAS の抑制と将来性について有意義な議論も行われた。

本書は当日の発表内容を各講演者にわかりやすくまとめていただいたものであり、日常の不整脈診療における ARB, ACE 阻害薬, アルドステロン拮抗薬使用の参考になれば幸甚である。

この場をお借りして、講演いただいた先生方に、単行本として発行するに当たり改めてご協力を賜りましたことに深い感謝の意を表します。

平成20年3月

日本心電学会学術諮問委員会

堀江 稔

奥村 謙

小野 克重

平岡 昌和
